

クリスマス礼拝「イエス様が私と共に生きてくださる！」

主任牧師：重田 稔仁

<メッセージ>

ヨハネによる福音書 3章 16

<インマヌエルの恵み>

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」 ヨハネによる福音書 3:16 新共同訳

序論

私は、33歳で学校を卒業しました。牧師になるために大学卒業後、六年間、外国の神学校で学んで帰国しました。帰国後間もなく、夜間のJTJ宣教神学校で働き始めましたが、昼間はニット服の卸の会社で働いていました。

そんなある日、尊敬する先輩牧師から電話がありました。その内容は、先輩が懇意にしている軽井沢のリゾートホテルのチャペルで開催される夜のクリスマスイベントで3日間、15分程度のクリスマスメッセージをして欲しいとの依頼でした。どうしても外せない用事がその年のクリスマス時期に重なってしまったので代役を頼みたいとのことでした。私は先輩の話しを聞くなり間髪入れずお断りしました。そりゃあそうでしょう。いくら何でも教会でメッセージしたことのない自分に神学校を卒業したからといって経験豊かな先輩の代役なんか務まるはずがありません。しかし思いもよらない返事が返ってきました。

それは、”私のクリスマスメッセージ集を重田さんに送りますから、その中からこれは！と思うものを選んでそれをメッセージしてください”と。早い話し先輩のメッセージをパクってくださいと。そうすればきっと皆さんが喜んで聞いてくださるからと。先輩はそうおっしゃると、こちらがマゴマゴしているうちに、「よろしく！」と明るく電話を切ってしまわれました。

それから数日経って約束通り、そのメッセージ集が届きました。送られてきたクリスマスメッセージは、どれも素晴らしい内容でした。どのメッセージも聴衆の心を始めから終わりまで捉えて離さないドラマの台本のようなものでした。私は先輩のメッセージ集を前に悩みました。クリスマスまであとひと月と迫るなか、3本のメッセージ原稿を書き上げる自信はない。とは言え、とは言え、先輩のメッセージをパクるのは気がすまない。カッコ悪い。しかし、先輩のメッセージをパクってお話したら集会参加者にきっと喜んでもらえるだろう

う・・・自分が準備したオリジナルメッセージが聴衆にとって退屈だったら推薦してくれた先輩に申し訳ない・・・と自問自答しながらああでもないこうでもない数日間思い悩みましたが、考えあぐねた末、自分でメッセージを準備してホテルのクリスマス集會に臨むことにしました。

その結果はいかに！

結論から申し上げますと、集會出席者の大半の方々の反応は微妙でした。早い話し私の話がつまらなかったのです。その証拠に3日目の最終夜にリゾートホテルの社長が出席してくださったのですが、社長は私のメッセージに全く興味を示しませんでした。私の被害妄想だとは思いますが、集會後にこのイベント主催者の社長にろくろく挨拶も出来ませんでした。惨めで悲しい夜でした。ヒロシみたいな自虐ネタになりましたが。

そんな軽井沢のクリスマスの出来事から25年の月日が経ちました。今、あのときのこと振り返って思うことは・・・あれはあれで良かったなということです。もしあの時、先輩のメッセージをパクっていたら、その後の私の人生どうなっていたか。おそらく楽しんで実を取るような人間になっていたと思います。

人生の途上でつまづき、倒れ、壁にぶつかり、道に迷うのは世の常です。しかし自分の道を自分なりに一歩、一歩歩けば、歩くほど人生の実を手に入れます！その実とは？それは精神科医柏木哲夫さんがおっしゃっているように、

「どのような状況に置かれても、その状況を幸せに変えていけるものの見方」を身につけられるということです。

しかし、自分なりに、人生を歩む！

言うは易し行は難しではないでしょうか。どうしたら人ら、自分なりに生きられるか。

「自信を持てばよい！」

「自分は自分だと。」

しかし、自分に自信がある人なんているんですかね。強がりじゃなくて。

聖書は、私たちが自分なりに生きる道を説いています。

それは、「信仰」の道です！

それは、私たち一人一人をユニークな存在として造った主なる神と共に生きる人生です。主イエスと共に生きるとき、かつての私のようにオドオドしないで生きることができます。なぜなら、私をこの世で唯一無二の存在として尊んでくださる主イエスの眼差しを日々、意識して生きるからです。

この主イエスの眼差しを覚えて生きることこそ、私たちクリスチャンライフの真骨頂ですが・・・なかなか、そうならない、実感できないのも私たちの現実です。

何故、せっかくクリスチャンとして生きているのに主イエスの眼差しを意識して生きられないのでしょうか。

それは、私たちが

主イエスと共に生きることが具体的にどういうことかわからないからです。

主イエスと共に生きるとはどういうことか。

それは一にも二にも、

主イエスが愛することを愛する。

主イエスが喜ぶことを喜ぶ。主イエスが尊ぶことを尊ぶということです。

では、

主イエスが愛し、

主イエスが喜び、

主イエスが尊んでおられることは何か？

それは、父なる神の御心

父なる神の御心とは、〈父は、あなたや私をその独り子を与えるほどに私たちを愛しているということですよ！〉

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」

この父の御心を私たちに自覚させるのが、主イエスの眼差しです。

主イエスの眼差しによって父のみ心を自覚するとき、どんな人でも大胆になれる。小さな犬が飼い主と一緒に居ると、熊みたいな大きな犬にでも吠えて飛びかかろうとするように！

主イエスは、天の父の御心を私たちに知らせるためにこの世にお生まれになりました。みなさん、主イエスの誕生をお祝いするとき、主が私たちに父の御心を教え自覚させるためにこの世にお生まれになったことを覚えて〈メリークリスマス〉とお互いを祝福しましょう！

そうするなら、主があなたと共に生きてくださっていることを実感し、もっと自由に大胆に生きることが出来ます。

インマヌエルの主イエスに

メリークリスマス！